

第9回ミナミ活性化協議会代表者会議結果

1 日時

平成26年1月25日（土）午後2時30分から

2 場所

ホテルメトロ The21 2F メトロホール

3 出席者（敬称略）

役 職	氏 名
大阪府副知事	植田 浩
大阪市長（代表者会議のみ）	橋下 徹
大阪市副市長	京極 務
大阪府警察副本部長	森田 幸典
ミナミ歓楽街環境浄化推進協議会会長	岡本 敏嗣
ミナミ歓楽街環境浄化推進協議会発起人	福長 徳治
大阪商工会議所副会頭	小嶋 淳司
一般社団法人関西経済同友会常任幹事	齊藤 行巨

4 意見交換

○ ミナミ歓楽街環境浄化推進協議会会長

このミナミ活性化協議会代表者会議は、平成17年に第一回目の会議が開催されて以来、今回で9回目となった。

この協議会設立以前のミナミは、ひったくりや車上ねらいなどの街頭犯罪が多く発生したほか、違法なファッションヘルスやホストクラブ、風俗店などの従業員らによる、街を行き交う人への悪質な客引きが横行していた。

また、性風俗店などのいかがわしい広告宣伝を行っていた風俗案内所が乱立したほか、クラブ営業による、騒音問題や、酒に酔った若者らの喧嘩、車や看板を壊すなどといった粗暴事案が横行していた。

さらに、路上には放置自転車がいたるところに無造作に置かれ、はみ出し看板やゴミが放置されるなど、様々な問題を抱え、悪いイメージに拍車をかける状態であった。

そのような中、「風情あるミナミの街を取り戻したい」、「ミナミの街を自分たちの手で良くしていこう」という地元の熱い思いから、平成17年2月に地元商店会や地域振興会などで構成する「ミナミ歓楽街環境浄化推進協議会」を設立した。

それ以来、我々地元では『みんなでつくろう ええ街ミナミ』をスローガンに掲げ、毎月、行政・警察・経済界との連絡会議や夜間の合同パトロールなどを実施し、さらには、はみ出し看板等の解消に向けた自主規制を強化するなど、ミナミの環境浄化、活性化に向けて努力してきた。その結果、治安・風俗環境問題では、警察において迷惑防止条例の改正や風俗案内所条例の制定などにより取締りを強化していただき、街頭犯罪も減り、当初の課題であった風俗店の違法な客引きは大きく減少し、同じく風俗案内所や、悪質なクラブも減少に至っている。

また、放置自転車問題についても、大阪市のご尽力により、平成21年10月に放置自転車の即時撤去区域をミナミ全域にまで拡大していただいたのをはじめ、駐輪場の増設や夜間撤去を含めた放置自転車の撤去回数を増やすなど、重点的な取組を行っていただき、放置自転車は減少傾向にあり、一定の成果をあげている。しかしながら、未だ無分別に放置された自転車も多く、更なる対策を官民挙げて行っていく必要がある。

そして、平成22年10月に「駐輪場付置義務条例」が施行されたが、ミナミ地区では地価や形状、立地において実情と合っておらず、まちづくりの観点から賑わいの創出にそぐわないと思われる。このミナミ活性化協議会の中に大阪商工会議所を事務局として、この問題のワーキング会議が設置されたので、地域特性を考慮した対応策をぜひとも講じていただきたい。

一方、官民一体となった「地域のルールづくり」に取り組んだ結果、平成22年4月に宗右衛門町地区において、パチンコ店やゲームセンターなどの建築を規制した「宗右衛門町地区地区計画」が歓楽街ではおそらく初めてのケースとして制定され、昨年3月には、宗右衛門町通の無電柱化と石畳化が完成した。

さらに、昨年4月、心斎橋地区においても、商店街では全国初の建築物の用途制限やデザイン規制を盛り込んだ景観協定が締結された。

このように、健全な街並再生に向けた動きも地元では積極的に行っている。

しかし、近年、法令で規制されていない、居酒屋やガールズバーなどによる客引き行為が横行し、客引きを専門とする業者まで現れ、我がもの顔で徒党を組む姿は、ミナミを訪れる人々に大いなる不快感を与えている。

こういった客引き行為は、ミナミが長年に亘り培ってきた食文化やもてなしの文化を損ねるものであり、結局は大阪にとっての大きな観光資源であるミナミの質の低下や衰退に繋がって行く由々しき問題と捉えている。

地元としても、このような非常に迷惑な客引きの排除対策として、ミナミ歓楽街環境浄化推進協議会において「客引き排除活動・共同宣言」を採択し、商店会や振興町会等によるパトロールや警備員の雇用をはじめ、知恵を絞り、汗を流して対策を継続しているところであるが、街の努力も金銭的にも人的にも限界に来ているというのが実情である。

現状を少し具体的に申しあげると、心斎橋筋を含めた東心斎橋地区や宗右衛門町、また、千日前の南北地区も様々な客引きがひどい状況で、本来ミナミの観光名所である戎橋に至っては、橋の上に50人もの客引きやスカウトがたむろし、ひっきりなしに声を掛け通行人の大きな迷惑となっている。私も先日、道頓堀通りでほんの15メートルほど歩く間に「お兄さん、飲み屋は？」と、次々に4人ものガールズバーの女の子から声を掛けられ、付きまといられる始末である。客引きは飲食店扱いであれば法令違反ではない、規制されていないということを十分承知していて、平気な顔で客引きを行い、それが日に日にエスカレートしているというのが実態である。

一昨年の夏以来、大阪府市民局、大阪府警察、地元で客引き対策の検討会を9回開催し、また、府市議員団の先生方もプロジェクトチームを立ち上げて、昨年の9月に客引き規制強化の提言を行っていただいた経緯も経て、現在、大阪市において新たな「客引き規制条例」の制定に向け、鋭意取り組んでいただいている。

ミナミにおける環境浄化の点でも街づくりの点でも、この客引き問題が今の最重要課題と位置づけているので、一刻も早く罰則付きの効果的な条例制定を切に願います。この条例が制定された際には、大阪府警察からも協力のお約束をいただいております、我々地元も客引き排除に向けて一層の尽力をするので、何卒よろしくお願い申し上げます。

また、ミナミは、来年、道頓堀川開削400周年という大きな節目の年を迎える。ミナミでは南商店会連合会が中心となって、インバウンド対策に近年力を注いでいるが、この道頓堀川開削400周年を、観光戦略の中核と据え、400周年記念事業を通してミナミの都市魅力のリノベ

ーションをはかり、国内外から多くの観光客にミナミを訪れてもらい、国際観光都市大阪の魅力をミナミから発信していきたいと考えているので、オール大阪体制でのご協力をよろしく願い申し上げます。

今後とも行政・警察・経済界・賛同団体の皆様からのご支援・ご協力をいただきながら、魅力ある、賑わいの街ミナミの再生・創造に向けて、まちづくり活動を推進してまいりますので、何卒よろしく願い申し上げます。

○ 大阪府副知事

ミナミ歓楽街環境浄化推進協議会の皆様にあつては、日頃から、ミナミの環境浄化や活性化のために精力的に取り組まれていることに対し、改めて深く敬意を申しあげる。

私は若い頃、南海線を使っていた関係で、繁華街といえば「ミナミ」という人間であり、ミナミの活性化に関しては、思い入れを持っているところである。

仕事の関係で、若干東京に住んでいたが、昨年4月に大阪に戻り、その時の実感として、「本当にミナミのまちがきれいになったなあ」、「明るくなったなあ」、「楽しくなったなあ」というふうを感じている次第である。

これもひとえに、ミナミ活性化協議会の皆様方、そして関係者の皆様方の努力のたまものによるものと考えている。

ミナミは、西日本最大の繁華街であり、アジアそして世界でも有数な街であることから、これからさらに観光客を呼び込み活性化していくためには、地元の方々、経済界の方々、行政・警察それぞれが協力していかななくてはならないと考えている。

大阪府としてもその一翼を担うところであり、若干その中の活動内容を紹介させていただく。

1つ目は、治安対策として、防犯カメラの設置を積極的に推進している。府の予算で、歓楽街の警察署ごとに、平成19年度から計画的に防犯カメラの設置事業を進めているところである。南警察署管内では、平成19年から開始し、今年度で計画が概ね終了することのことで、150台程度の防犯カメラの設置が進んでいる。

加えて、平成21年度から実施している各市町村や地元の自治会として防犯カメラを設置することに対し、設置費の補助を行っており、これらの成果もあり、街頭犯罪が着実に減少しているところである。

2つ目は、青色防犯パトロール活動の普及促進のために、各地元の民間団体の方々が青色防犯パトロールをする際の車両装備品の提供も行っており、防犯活動による体感治安を高めるだけでなく防犯意識の高揚にも努めている。

これら地域の安全・安心に関わる問題は、大阪府と大阪市が連携し、一体となって進めているところである。

ミナミ歓楽街環境浄化推進協議会会長の発言にもあったように、道頓堀の水辺空間、町並み整備は必要なものだと思っており、活性化のためのイベントとして、御堂筋のイルミネーション、御堂筋フェスタ等の様々な活動を支援しているところである。

その中で、「規制」というものは、当然古くなったもの、時代にあわないもの、あるいは過剰なものは活力を阻害するので、どんどんやめていかななくてはならないし、先ほど客引き規制条例の話もあったが、住民の安全・安心を高めるための規制については進めてしていかななくてはならない。

昨年6月に大阪府と大阪市が協働で、有識者を含め「大阪府市規制改革会議」を設置した。この会議では様々な規制に関して議論をしており、昨年12月に、「道頓堀川開削400周年」、そして「大坂夏の陣」からも400年にあたるという2015年に向けて、「大阪をさらに元気にしていこう」、「楽しいまちにしていこう」という提言をいただいているところである。これを踏

まえ、大阪府、大阪市協働で行政的にどのようなイベント、あるいは活動をしていくかを議論しているところである。

いずれにしても、ミナミの活性化を行っていくためには、関係者の皆様の協力は必要なものだと考えており、大阪のミナミが元気になれば大阪だけでなく、関西全体が活性化し、ひいては日本全体が元気になる、そして我々がそのための牽引役になっていくべきだと強く感じているところである。大阪府としても最大限努力して参るので今後もご理解とご協力をお願いする。

○ 大阪市長

日頃より、大阪市政、また大阪府政に対しご協力をしていただき、感謝申し上げます。

今日は、客引き規制条例についての状況説明と、ミナミについて私が何を考えているのか、それに関連して、いろいろと話題になっている「大阪都構想」、そして、なぜ私が大阪市の役所の体制を変えたいのか、変えなければならないのか、これらを短い時間であるが関連させて申し上げます。

私が皆様の前でこのように直接話をするのはおそらく初めてだと感じている。大阪市長という立場にあれば、本当は地域の皆様と常日頃からコミュニケーションを取って、まちづくりのために役所を動かしていくのが仕事であるが、メディアが面白可笑しく「橋下は地域に出るのが嫌いだ」とか「顔を見せることもなかったのに、最近やけに顔を見せるようになった」とか、このようなことばかり書いているが、大阪市長という仕事は、前任の市長まではどうという考え方で仕事をしてきたかは分からないが、私がやろうとしている仕事のやり方でやると、市役所の市長室から一步も外に出ることができない状況である。朝から夕方まで、役所としても一生懸命頑張ってくれているが、次から次へと、課題が発生している。私は大阪市交通局の責任者でもあるが、大阪市交通局は、阪急電鉄と同じぐらいの規模である。その社長業もやらなくてはいけない。そして、大学、中央卸売市場、市立病院があり、それから学校園にあつては、500以上である。小学校、中学校、高校、保育所、幼稚園、それに加え、ゴミの問題があり、福祉・医療・教育の問題があり、このような状況の中で、私は市長という立場で、副市長以下が一生懸命仕事をやってくれているが、大阪市長は「お飾りの冠」、お飾りのポジションにならざるを得ない状況である。あまりにもやるべきことが多過ぎる。副市長、局長が一生懸命やってくれているが、そこに色々と市民の皆様の声を聞き、「市長としてこうあるべきだ」と指示をだそうと思っても、あまりにも広過ぎて、なかなか地域に顔を出して皆様の話を聞くという時間的余裕がないまま、この2年間を走ってきた。

さらに、大阪市は260万人の人口を抱え、24の区が設けられている。各区には区長が存在するが、24区1つひとつが、1つの市町村と同じ規模である。よって各区には、本来はそれぞれ選挙で選ばれた区長がいて、皆様と話をし、物事を決定して進めていく、本来はこうあるべきであると考えている。

大阪市民の皆様は、選挙で選ばれた区長を経験したことがないので、選挙で選ばれた区長と、今の区長との違いがあまり分からない方もおられるかも知れない。しかし、これは決定的な違いがある。東京都の選挙で選ばれた区長と、大阪市の区長との決定的な違いは、ルールや制度を乗り越えていかななくてはならない、今までの行政のやり方を変えていかななくてはならない、その時の決定権は選挙に選ばれた者なのである。役所は一生懸命仕事をしてくれているが、これは、あくまでルールや制度に基づいて仕事をしているのである。

例えば、西成区では、不法投棄物件の回収を子供の通学時間前に全部回収すると決めた。それまでの環境局のルールによると、仕事は職員の勤務時間の関係もあり、子供の通学時間の後に不法投棄物件を回収していた。

私はこれに対して、「予算をつける」、「問題があれば何とかする」、「組合の問題も何とかする」として、子供の通学時間前に回収を指示したところ、局はすぐに動いてくれた。

西成区の防犯灯については、ある一定の区域が夜間に暗かったため、これをLEDに替えたいという要望が地元からずっとあげられていた。大阪市全体のルールでは、マメ（灯）が切れたら替えていくので、この地域限定で特別扱いする訳にはいかないということでなかなか話が進まなかった。しかし、「予算をつける」、「特別扱いで構わない」として、指示をすれば、すぐに交換された。

ミナミでも、客引き条例について、担当局が一生懸命考えてくれていたが、罰則をつけるかどうかで議論が進まなかったところがあった。そんな中で、新聞報道や大阪維新の会の議員から話を聞いて、最終的に、「罰則をつけよう」、「それでいこう」と、現在、罰則付きの条例の制定を目指すことにした。

しかし、4月から条例を施行しようと考えていたが、憲法上の問題もあるため、罰則の適用は盛り込むが、もう少し、規制の方法等を慎重に検討させていただきたい。そのためには、大阪府警察とも連携していく必要があり、罰則を設ける関係上、周知期間も必要である。現時点のスケジュールでは6月制定、10月施行を目指している。

これにより、ミナミだけに特別に予算措置し、重点地域、重点路線を設け、人員を配置する関係上、地元の皆様にも一定のご協力をお願いする。

そして、皆様にはご心配をおかけしていたかも知れないが、「御堂筋の歩行者天国」については、なくなってしまうという話もあった。しかし、これではダメだということで、すぐに大阪府知事に連絡し、5月に通常通りやることに決めた。ただ、来年度実施するに当たっては、これまでのようなやり方でなく、世界的なイベントができるように、予算が従来規模の2倍、3倍になっても構わないとして指示を出しているので、2015年は、今までにはない御堂筋フェスタにしたいと考えている。

それから、「うめきた」の問題にも関わっている。これだけでも、年中関わらなければいけないような大きな問題でもあるが、報道にもあったとおり、なにわ筋線、うめきたから難波、なにわ筋の地下に関西空港直結の鉄道を設置したいと考えている。これにより、難波、ミナミは大きく変わると思われる。現在、阿倍野、天王寺が活気に溢れているが、私は、阿倍野、天王寺、ミナミが合わさって、アジアのゲートウェイ観光拠点とならなければいけないと考えているので、しっかりとミナミの活性化に向けて取り組んでいきたい。その中で、私は「とんぼりリバーウォーク」をもっと有効活用し、活性化できないか検討するよう担当局に指示している。地元の皆様のご協力・ご支援をいただかなくてはならないが、民間事業者に管理運営を任せていますから、私としては、水辺のレストランをシンガポールのボート・キー、クラーク・キーのような形にしたいと思っている。しかし、周辺の店舗と競合してしまい、客を取り合うことになるので話を進めにくいという意見がある。これは全然違うと考えている。シンガポールもそうだが、そういう有名な水辺のレストランが出店されると、必ず波及効果が出る。

あのままの「とんぼりリバーウォーク」だともったいないので、周辺の店舗に迷惑がからない形で、有名な水辺のレストランのようなものを地元の皆様と、協力、協働しながら、少なくとも特徴のあるビアガーデンのようなものができるのかと考えている。中之島のリーガロイヤルホテル前の水辺のレストランは、私が大阪府知事の時に設け、水辺のビアガーデンのような形で営業した。アメリカ風のビアガーデンで、水着姿の女性従業員がいるので、女性の方には色々ご意見をいただくことになったが、とても人気があった。これと同じようにやる訳ではないが、そのようなことも考えていきたい。

これらについて私が何を申し上げたいかと言うと、このようなことは最終的に選挙で選ばれた予算権を持っている「長」が決定して進めていかなければならないが、今の中央区長は頑張ってくれてはいるけれども、残念ながら、大阪府役所の体制では予算権を持っていない。皆様の意見を聞いて、1つひとつ議論をして、色々検討しているうちに、結局できないということになっ

てしまう。やはり、選挙で選ばれた長と地元の皆様と一緒に、やるべきことを決めるというのが非常に重要であると考えている。私は大阪市長という立場で、本来は24区の全てを回って皆様の意見を聞かなければならないが、さすがに1人の人間、24時間しか時間はなく、能力的にもそこまで可能ではない。全ての区の意見を吸い上げ、私が決定することができないという状況になっている。皆様にとっては「ちょっと足りないところがある」「橋下はちゃんと働いていない」などといった思いがあるかも知れないが、これは今の大阪市役所の体制の限界であることを知っていただきたいと思っている。議員の皆様からの意見を聞きながら、とにかくやるべきことはしっかりやっていきたいと思っているので、ぜひ地元の議員の皆様いろんな意見を出していただいて、そして区長に意見を出していただいて、最後に私が決定できるようにしたいと考えている。

そして、駐輪場の附置義務条例については、様々な議論があるが、条例を改正する方向で考えるよう担当局に指示を出している。一度作った条例を、そのまま未来永劫引きずっていくのは行政の癖である。当初条例の効果があつたが、その後、地域の実情に合わせると不都合が生じた。そうであれば、改正すればいい。現在、大阪維新の会の議員に、改正案を作るようお願いしている。議員と協働してこの制度改正に結びつくような改正案を作っていきたいと考えている。

いろいろ申し上げたが、皆様の声を聞きながら、最終的には役所に決定を出すというように進めていきたいと考えているので、そういう意味からも、私としては、大阪市内には最低でも5人の選挙で選ばれた区長を誕生させないと、地域の声をすくい上げる行政はできないと考えている。詳しくはタウンミーティングなどで説明させていただきたいと思っている。

○ 大阪府警察副本部長

皆様には、平素から警察行政に格別のご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

それでは、大阪府警察における昨年の主な取組について、3点報告する。

第一に、ミナミ地区において、違法な客引きを113人検挙した。その中でも、現在、問題となっている居酒屋等の飲食店による客引きに関して、ミナミ地区を中心に活動する居酒屋チェーン店の客引きグループを迷惑防止条例違反で検挙した。

また、年少者を働かせているなど問題点の多いガールズバーについても、風営適正化法違反、労働基準法違反等で摘発するなど継続した取締りを行っている。

第二に、組織犯罪については、暴力団が関与するインターネット利用賭博店やバカラ賭博店、「金スロ」と称する新たな形態のスロット賭博店など5店舗を摘発するなど、積極的な取締りにより暴力団関係者121人を検挙している。

第三に、街頭犯罪については、昨年一年間の認知件数は前年比で若干増加したが、ひったくりについては、一昨年と比べ、約25パーセント減少した。

街頭犯罪の抑止に効果的である街頭防犯カメラについては、ミナミ地区において、120台を運用しているが、新たに37台を設置すべく作業しており、4月以降、合計157台のカメラを運用することとしている。

以上、昨年の取組について申し上げますが、大阪府警察としては、今後も引き続き、ミナミ活性化協議会の一員として、諸対策を積極的に推進していく所存であるので、何卒よろしく御礼申し上げます。

なお、大阪市において客引きの規制に関する条例の検討がなされていることは承知しており、条例が成立したあかつきには、大阪市に必要な協力をして参る所存である。

○ 大阪商工会議所副会頭

ミナミの環境浄化に向けた具体的な取組が目に見えて成果を上げてきていることは、誠に喜ば

しい限りである。ここに至るまでの、地元の皆様方の粘り強いご努力、そして行政関係者のご支援に改めて敬意を表する。

大阪商工会議所では、「千客万来都市OSAKAプラン」を掲げているが、その柱の一つとして、国内外から観光客やビジネス旅客が大阪に来ていただけるよう、交流人口を増やしていこうと「旅游都市化推進プロジェクト」を進めている。ミナミは大阪への観光集客を図る上で、随一の貴重な地域資源であり、ミナミの賑わいづくりを進めることは大阪全体の観光集客力の向上にダイレクトにつながるものであると考えている。

皆様もご承知の通り、大阪では新たな拠点の開発が目白押しである。キタではグランフロント大阪が昨年オープンし、さらに二期事業の開発に向けて動き出しているところである。阿倍野では、3月7日に「あべのハルカス」がオープンし、日本一の高層ビルとして国内外からの集客が見込まれている。こうした環境の中でミナミは取り残されていくのではないかと、そのような声も聞こえてくるが、私はそうは思わない。

大阪という大都市に、様々な場所に新しい多様な魅力が加わり、大阪全体として集客力が高まったと捉えるべきである。もともと大阪固有の魅力が街につまっているミナミにとって、今がさらに大きく飛躍する絶好のチャンスであると考えている。

実際、この年末年始、ミナミの街には国内外からの観光客など、半ば危険を感じるほどまで多くの人であふれ、とてつもない賑わいであった。まさにミナミの底力を私はそこに感じた思いがした。

ショッピング、飲食、そしてエンターテインメントに至るまで、言葉や国の違いを超えて楽しめる素材が、路地の裏や水辺に至るまで張り巡らされ、しかもそれが大資本によって計画的に築かれたものではないところが、まさに大阪ならではのテーマパークと言える。これこそが多くの人を惹きつけてやまない、ミナミの最大の強みだと思う。

閑空のおひざ元でもあるミナミには、アジアを中心に、今後ますます多くの海外からのお客様が訪れるはずである。安全・安心をベースに、さらにまちの魅力を高め、その魅力を発信するよう、私ども経済界も、地元の皆様や行政とともに引き続き努力して参る。

大阪商工会議所では、水都大阪の魅力向上にも積極的に取り組んでいる。来年、開削400周年を迎える道頓堀ではリパークルーズの人气が年々高まり、インバウンドの比率も急速に高まっていると聞いている。水辺のさらなる魅力づくり、ミナミの魅力発信に向けてさらに力を入れて参る。

最後に、今後のミナミのさらなる賑わいづくりに向けて、2点課題を申し上げておきたい。

まず1点は、自転車の問題である。地元の皆様のご努力、さらに大阪市による積極的な駐輪場の増設によって、ミナミでは目に見えて放置自転車数は減少してきた。一方で、民間の建築物に対する駐輪場の附置義務条例が4年前に施行され、これが今後のミナミの賑わいづくりの大きな足かせになるのではないかと懸念しているところである。

私どもでは昨年7月に、本条例の定める基準が厳しすぎるとして、その見直しを求める要望を大阪市に提出したところである。とりわけ、ミナミでは間口が狭く、かつ多層階にわたる建築物が軒を並べている。さらに自転車通行禁止の道路に面した商店街もある。こうした施設や地域においても、大阪市内一様に同じ基準で、駐輪場の附置義務を課すことはいかがなものかと思う。実際、附置義務条例に基づいて設置された民間のビルの駐輪場が、ほとんど利用されていないといった状況も生じている。大阪市におかれては、こうした点も踏まえ、是非とも、地域の実情に合わせて条例の改正も視野に入れた検討を進めていただきたいと思う。

もう1点は、年末年始の川の賑わいについてである。あれだけ多くの人でにぎわっていた年末年始のミナミであるが、不思議なことに普段、道頓堀で観光客の人気を集めている船の姿を1隻も見ることにはなかった。聞くところによると、年末年始の期間、道頓堀川や東横堀川の水門が休

業しているため、観光船が道頓堀に入れず、通常の運航ができないとのことである。

道頓堀のリバークルーズは、今や日常のミナミの風景であり、大阪の貴重な観光資源である。道頓堀の大看板を目にしながらか、観光船に乗ることを楽しみに大阪に来られる観光客も多いことと思う。水門の通年運用に向け、管理されている大阪市の前向きな検討を、是非ともお願い申し上げます。

○ 一般社団法人関西経済同友会代表幹事

関西経済同友会としては、こちらにお集まりの各関係団体の皆様と連携し、ミナミの街の繁栄に向けて取り組んでいく所存である。

この場において、ミナミを含んだ大阪のこれからの見据えて、意見を述べさせていただきます。

今度、2020年に東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定した。また、その翌年の2021年には、ワールドマスターズゲームズも関西で開催されることとなった。そして2019年には、ラグビーのワールドカップの開催も控えている。これらビッグイベントの開催により、世界各国から、多くの方々が東京はもとより大阪を訪れることが予想される。特に、関西ワールドマスターズゲームズは、生涯スポーツの国際総合競技大会であることから、幅広い各国のアスリート関係の方々、その周囲の方々が関西、大阪を訪れることとなるだろう。

近い未来、今以上に外国からの訪問者の増加が見込まれることから、ミナミに来られた方が気持ちよく、楽しく安心して過ごせるように、例えば多言語による交通標識を設けるなども一案と考えている。これが、所謂「おもてなし」の一つであり、道案内以外にも言語の壁はあり、まだまだ、おもてなしをする仕掛けはたくさんあると私は思っている。

このほか、家族連れの皆様が安全で安心して楽しめるように、風俗環境の浄化も重要だと考えている。

関西経済同友会は小さな組織であり、一団体としてはたいしたことはできないが、ミナミの街のより一層の繁栄に向けて、今後も各関係者、団体と協力して参りたいと考えている。

○ ミナミ歓楽街環境浄化推進協議会発起人

本日は、構成団体の皆様ほか、本当に多くの皆様がこの代表者会議に参加していただき、本当に意義のある会議であったと感じる。

また、大阪市長から、現在、ミナミで一番大きな問題となっている客引きについて、「条例を作る」と、はっきりと発言していただき、本当に安心した次第である。

我々自身も諦めず、これからもずっと活動を継続していくことが大切だと思っている。

○ 大阪市長

リバークルーズ運行のための水門の件であるが、これが、安全性の問題のために閉めているというのであれば問題になるが、そうでなければ開けるようにする。天王寺動物園と大阪城の天守閣も正月は休館となっていたことから、本年からは開けている。水門の件が、職員の勤務時間の関係であれば確認のうえ、調整させていただきたい。

日本維新の会と自民党での共同提案のカジノを含む総合型リゾート施設は、通常国会であげられており、大阪市は、舞洲に誘致することを決定し、そこに外国人観光客をたくさん呼び込み、ミナミではしっかりと外国人観光客を受け入れて楽しませてもらいた

いと考えている。

また、方針として一昨日決定したばかりだが、街頭犯罪対策として、自転車盗の多発も問題となっていたことから、3年で10億円の予算を組んで、警備員を100人以上雇用し、防犯対策に充てたいと考えている。今後、この件についてもご協力いただきたい。

5 共同アピールの採択

意見交換後、出席者全員一致で「第9回ミナミ活性化協議会代表者会議共同アピール」を採択した。

6 啓発イベント、パレード

代表者会議終了後、相合橋において啓発イベントを行い、道頓堀通（相合橋～戎橋南詰）でパレードを実施した。

※ 放置自転車撤去と放置自転車追放キャンペーン

代表者会議に先立ち、道頓堀通（相合橋～御堂筋の間）で大阪市建設局による放置自転車の撤去及び参加者による自転車放置禁止区域の啓発キャンペーンを実施した。

第9回 ミナミ活性化協議会代表者会議 共同アピール

われわれ、ミナミ活性化協議会は、誰もが安全で安心して楽しめるミナミのまちを目指し、平成17年の設立から、地元・行政・経済界が一体となり、オール大阪体制で、健全で魅力あるまちづくりに向けた取組みを進めてきた。

この間、違法風俗店の取締り等風俗環境の浄化をはじめ、街のイメージを悪化させている迷惑な客引きや放置自転車への対策、防犯カメラの設置、道頓堀川の水辺整備や宗右衛門町通りの道路整備、心斎橋筋の景観協定締結など、ミナミの街は再生に向けて確実に歩んできている。

しかし、いまだ残された課題も数多くあり、国際都市 OSAKA に相応しい、安全で安心な魅力あふれる街へと発展させるため、今一度「みんなでつくろう ええ街ミナミ」を合言葉に、次の2点を目標に掲げて、強力に推進することとした。

一、 『安全安心で、快適なまちの実現に向けて』

違法な客引き取締り等の客引き対策や街頭犯罪抑止対策を強力に推進するとともに、放置自転車の継続的な撤去活動に加え、既設駐輪場を有効活用する仕組みづくりに取り組むなど、安全安心かつ快適に楽しめるまちづくりを推進する。

一、 『魅力あふれるまちの実現に向けて』

道頓堀川開削400周年を平成27年に控え、この街本来の風情や情緒を取り戻しつつ、水辺を楽しみ、食や文化を楽しむ風情が息づく、誰もが魅力を感じることができるまちづくりを推進する。

平成26年1月25日

【ミナミ活性化協議会】

大阪府知事	松 井 一 郎
大阪市長	橋 下 徹
大阪府警察本部長	田 中 法 昌
ミナミ歓楽街環境浄化推進協議会会長	岡 本 敏 嗣
ミナミ歓楽街環境浄化推進協議会発起人	福 長 徳 治
大阪商工会議所会頭	佐 藤 茂 雄
一般社団法人関西経済同友会代表幹事	鳥 井 信 吾

～賛同団体～

ミナミまち育てネットワーク

公益社団法人関西経済連合会

大阪観光局（公益財団法人大阪観光コンベンション協会）